

つながる「植樹の輪」

横浜ゴムが進和学園に苗木5千本譲渡



神奈川県全域・東京都町田市の地域情報紙

掲載号：2010年8月12日号

横浜ゴム(株)平塚製造所が11日、工場内で栽培したシラカシやアラカシの苗木約5千本を、社会福祉法人進和学園に無償で譲渡するという覚書を、同学園らと交わした。

横浜ゴム(株)は一昨年、国内外の全生産拠点で植樹活動を展開するという、『千年の杜プロジェクト』をスタート。平塚製造所でも、社員がドングリなどの木の実を拾い集め、これまでに約3万本の苗木を育てた。

一方、知的障がい者の作業所などを運営する進和学園でも平成17年、利用者の工賃を確保するための新規事業として、『いのちの森づくり』と題したプロジェクトを立ち上げた。湘南平などで集めた種を3年がかりで苗に育て、昨年には約1万2千本を出荷している。

同学園によると、今回譲渡された苗木は利用者が引き続き育て、緑化を必要としている行政や企業に出荷。利用者の工賃に換えられるという。また、同学園の森づくりに対して、各所から寄せられている寄付金を充てて、これらの苗木を公共施設などの緑化に役立てていきたいとしている。

横浜ゴム(株)平塚製造所の担当者は、「当社でも多くの苗木が育ち、今後地域に向けて役立ててもらおうというなかで、同様の取り組みをしている進和学園さんと共存していければ。余剰苗の有効活用や、福祉施設への貢献という意味でも、非常に意義のある協定となった」と話している。